

自動名寄せデータベース技術

形式の異なる複数データベース間でのシンプルな名寄せを実現



概要

一般的に知られているデータベース技術として、RDB(Relational Data Base)やKVS(Key-Value Store)があるが、複数システム間で活用するには不便性がある。

本発明は、複数のシステムで管理されている関連性のないデータであっても、複雑なテーブル設計や管理を必要とせずに堅牢なデータ管理を行うと共に、効率的な運用を行うことができる名寄せシステムを提供する。

	メリット	デメリット
RDB	テーブルが表形式であるため、エンジニアが直感的にテーブル内のデータ設計を行える	テーブル間の連携情報をその都度設計する必要があり、理論上の設計が必要とされ複雑
KVS	データ自体にフィールド情報を持つことで、RDBに対してテーブル設計の柔軟性を解決	テーブル内のデータ設計が直感的に行えず、俯瞰的に把握しづらくメンテナンス性も含めて弱い

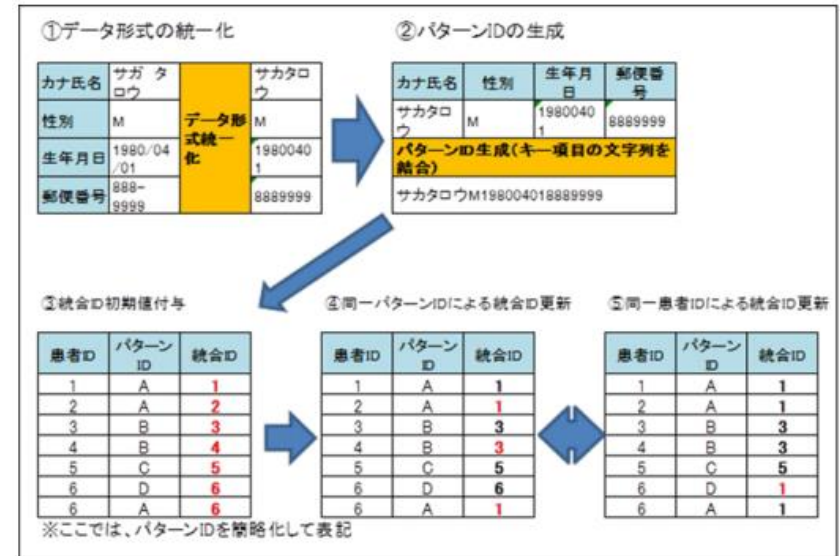
応用例

- 管理データベース
- 名寄せツール・データクレンジングツール

知的財産データ

知財関連番号 : 特許第6245571号
 発明者 : 藤井進
 整理番号 : T20-3109

独自のID管理手法により、高精度な名寄せを実現



関連文献

[1] 藤井進,他(2016),パターンIDと患者IDから生成する統合ID(自動名寄せ技術)の個人を特定する能力評価と、それをを用いた施設間の連結がもたらす大規模医療情報データベースにおける経時性や網羅性に対する有用性の評価

お問い合わせ



株式会社東北テクノアーチ

TEL 022-222-3049

お問い合わせフォームは[こちら](#)

本資料をダウンロード



お問い合わせ

<https://www.t-technoarch.co.jp/contact.html>



発明案件を随時更新中

<https://www.t-technoarch.co.jp/anken.php>



LinkedIn ページをフォロー

<https://www.linkedin.com/company/tohoku-techno-arch>



Leading you to Successful Industrialization



株式会社

東北テクノアーチ

TOHOKU TECHNO ARCH